

- UDトラックス、「クオン」のフロントおよびインターアクスルプロペラシャフトに不具合があるとしてリコール  
17年5月10日～21年7月22日に生産した合計1万7587台  
尚、今回の不具合については2018年5月19日にリコールをすでに届け出ているが、新たな原因が判明したため、措置内容の変更と対象を拡大し届出。ユニバーサルジョイント組付け時の軸方向ガタ調整工程が不適切なため、ジョイント部の軸方向のガタが許容値を超えているものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、グリースが漏れ出し泥水等がベアリングカップ内に侵入。グリースの劣化による潤滑不足でベアリングが焼き付き、ユニバーサルジョイント部が損傷し、最悪の場合、プロペラシャフトが脱落して走行不能となる恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」のエンジン制御プログラムに不具合があるとしてリコール 19年4月1日～21年10月29日に生産した1万9090台  
今年9月に届け出たリコールで、エンジン制御コンピュータのプログラムを変更したが、排気温度センサ用故障判定プログラムが不適切だったため、センサ正常時に異常と誤判定しエンジン警告灯が点灯する恐れがある。
- マツダ、「デミオ」等計9車種のガソリンエンジンの低圧燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 18年4月3日～19年8月15日に生産した4万2644台  
低圧燃料ポンプのインペラ(樹脂製羽根車)において、成形条件が不適切なため、樹脂密度が低くなって、燃料により膨潤して変形することがある。そのため、インペラがポンプケースと接触して低圧燃料ポンプが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至る恐れがある。
- ボルボ・カー・ジャパン、「V40」「V40クロスカントリー」のキャップレス給油口に不具合があるとしてリコール  
15年6月16日～19年1月8日に輸入した1万5345台  
尚、キャップレス給油口のリコールはすでに2017年7月3日に届け出ているが、改善措置の内容が不十分だったため、再度届出。キャップレス給油口の防水設計が不適切なため、大雨等により燃料装置内部へ雨水が浸入することがある。そのため、燃料装置が腐食し、走行中エンストやエンジン始動不良、または燃料漏れに至る恐れがある。
- スバル、「レヴォーグ」の電動パーキングブレーキに不具合があるとしてリコール 20年11月2日～21年3月12日に生産した1万8517台  
VDC(ビークルダイナミクスコントロール)ユニットにて、電動パーキングブレーキ制御プログラムが不適切なため、電動パーキングブレーキが作動中に車両振動が入ると、センサが過敏に反応し、走行中と誤認識することがある。そのため、警告灯が点灯し、電動パーキングブレーキが解除できなくなる恐れがある。
- スズキ、「ハスラー」「スペーシア」・マツダOEM「フレア クロスオーバー」「フレア ワゴン」について、停車直前にエンストする恐れがあるとしてリコール  
17年4月24日～19年12月3日に生産された、R06Aエンジン搭載車18万8378台  
排気側の油圧式VVT(可変バルブタイミング機構)の作動を制御しているオイルコントロールバルブにて、フロントグリルより侵入した塩水によって内部に錆が発生し作動できなくなるものがある。そのためVVTの制御ができなくなり、エンジン警告灯が点灯し、停車直前にエンストに至る恐れがある。

